

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所として独自の理念のもとに地域に根ざした事業所運営に努めている。	グループホームというものを理解してもらえよう積極的に外へ出て行きたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ツクイの理念と共に、「役割を持ち共同生活を共にする」をユニットの理念とし、会議等、折に触れ話し合い確認は行っている。壁にユニットの理念を大きく掲示している。	常に理念のもとに職員が一丸となってサービス提供にあたっていきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族が島内にいられる方が多く、面会時・情報誌などで伝えるようにしている。ご自宅のご近所様及び友人の方も面会に来られている。	今後の地域との交流の場において積極的な周知をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	天気の良い日は近所の散歩や、畑に出掛けており挨拶を交わしている。お互いに声を掛け合っていて、関係は良好と思う。近所の親子が遊びに来てくれる。	散歩をかねて、保育園の運動会及び練習の、見学をさせてもらったが、近隣に小学校もあるので、関係を深めて行きたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の老人会、自治会、民生委員などの見学やボランティアがあり交流に努めている。	来てもらうのも良いが、外にも出て行くようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所での一定の成果は地域に伝わっていると思うが、地域の高齢者の貢献にまでは至っていない。		事業所での成果をこれからの地域貢献に活かしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的である「サービスの質の向上」が図れるよう全職員が努力している。		今回の評価を真摯に受け止め今後につなげていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での外部の参加者からの意見・要望を事業所運営に取り入れるよう努めている。		運営推進会議以外にも関わりを持っていき、良好な関係を作っていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの照会があれば速やかに対応している。運営に関して指導・助言をいただいている。		運営推進会議以外にも関わりを持っていき、良好な関係を作っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	該当者はいるが、全体としての理解は薄い。		外部の研修や事業所での勉強会を通じて理解を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例はない。マニュアルは整備されている。		虐待防止マニュアルをもとに、今後も遵守に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用パンフレット、重要事項説明書、契約書、個人情報使用同意書、他に入居時確認事項説明書を時間をかけて説明し理解していただくように努めている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の意思を上手く表すことが困難な方でも、言動や行動から思いを察知するよう努めサービス提供にあたっている。		自分の意思を話す事が出来る、雰囲気作りを心がけている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に介護記録などをもとに報告している。健康状態などに変化のあったときは随時報告している。金銭においては自己管理している利用者もいる。預かり金はなく全て立替とし、口座振替としている。異動は家族の面会時に報告している。		広報誌を送付して普段の生活状況を知らせている。面会時に状況をお話している。個別に写真や手紙などをお渡ししたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での報告の際などに十分なコミュニケーションが取れるように、職員のいない時間を作り、お話して頂いている。家族からの意見や要望・苦情があれば会議・申し送りなどで前向きに検討し改善していくように努めている。		家族と接する際には何でも気軽に言っていただけるような関係を更に進める。利用者の家族同士がつながれるような、家族会のようなものが作れるとよいかと思う。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の開催(リーダー会・チーム会)、他には日頃からコミュニケーションをとるよう心掛け、意見・要望は取り入れるようにしている。		個別面談も実施しており意見や要望を共有できるように努めている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的には管理者・計画作成は現場に入らずとも運営でできるようなシフトになっている。業務のかなでもその日に応じて休憩時間を変更したりと柔軟に対応できるよう努めている。行事のときなどは職員を多く配置できるようにしている。		更に個別のサービスに対応していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が安心して暮らしていただけるよう、職員の固定などできるだけ配慮はしている。新入職員入社時には、利用者に対し十分に紹介と説明は実施している。		より良いサービス提供のため、職員の定着に努めて生きたい。
18-2 マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	きちんと整備されており、確認できる場所に保管されている。随時更新はしている。		基本的な整備はされてはいるが、会議や勉強会などで周知徹底を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>内部・外部研修は積極的に行っている。ほとんどの職員が参加している。研修資料は常に確認できるよう整備されている。</p>	<p>研修したことが、研修だけで終わらないよう、実際の業務に活かして行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループ内での連携はできている。地域のつながりはあまりない。</p>	<p>地域に密着したものであるためにも、今後交流を深めサービス向上を図って行きたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場では会議や申し送りなどで話し合いをしている。職員の声に耳を傾けながら懇親の場を持ったりと職員同士での交流を図っている。</p>	<p>日頃のコミュニケーションや個人面談を通して課題や問題の把握解消に努めたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員のスキルアップ、研修、資格取得など支援体制がある。個々の努力実績や勤務状況などを評価し、今後の業務に繋げていけるようにしている。</p>	<p>外部研修等の情報提供を行っている。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面接時に時間をゆったり取ったり、実際に施設に来てもらったりと、本人と接する機会をできるだけもち、安心や信頼関係を築けるよう心掛けている。</p>	<p>会話する時間を出来るだけ多く持ち、本人の要望や不安を把握し、職員間において申し送り、どの職員でも同じ対応が出来るようにしたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時にこれまでの経緯や家族の不安、思いをゆっくりと聞き、信頼関係を築くよう努めている。</p>	<p>利用者とは別の場所で、ゆっくりと話をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の思いや状況何が必要なのかを見極めるように努めている。		必要に応じてケアマネージャーなど外部とも連携をとる。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ利用前に一度は施設に来ていただき少しでも雰囲気理解していただくなどしている。利用当初は一番不安がある時期と思うので細心の注意を払う。		可能であれば利用前実際の生活も見せていただくのも、場合によっては良いかと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本位という基本的なことを忘れずにサービス提供を行う。レクリエーションや日々の生活の中であくまでも脇役であることを心掛けながらも、認知症の方ということを忘れずに判断を行い、穏やかに声掛けを行うようにしているが、声の掛け方が難しく、思うような結果とならない事がある。		コミュニケーション技術の向上。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一方通行的な関係にならないよう常に連絡を密にし、協同しながらサービス提供に努める。		いつでも意見や苦情・相談をできるような関係。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人又は家族、それぞれに対する互いの思いを受け止めそれがつながる様な働きかけをしていく。		外泊が出来ない理由や、事情を、質問のたびに家族の立場で、説明を行っている。(冬は海が荒れるから等)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、親類だけでなく、近所の知人の方にも多数面会に来ていただいている。		遠方の親戚の方、希望時に、宿泊していただきました。(負担金あり) 希望時には出来る限り対応していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々人の自由な時間も大切にしながら、他者との関わりが円滑になるよう状況作りに努めている。		利用者同士の協調。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な場合は対応していくが、現在は何もしていない。		退所した方においても、必要であれば対応していく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り利用者と関わる時間をとるように努力し、思いや望希望を把握するようにしている。意思決定が困難な方においても全体で理解に努めている。		本人だけでなく家族や周囲の県警者などからも情報を収集したりしてサービスに繋げていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族のほかその人に関わっている人からも情報を得ている。関係機関からも情報収集は行う。センター方式の一部に記入をお願いしている。(任意にて、分かる限り)		家族の負担とならないように、聞き取りにて行って行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態においては看護師を配置しており、適正な把握ができていと思う。一つ一つの事柄はもとより、全体的な把握にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で利用者の思いや希望を聞き反映に努めると共に、職員のアイデアを取り入れて話し合っている。家族ともカンファレンスや面会時、電話などで連家を取り作成を行っている。		より迅速な対応が出来るようにしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定時の見直し以外にも随時変化があれば、職員間で検討し、随時行って様子を見てから、プランに取り入れている。		常に実情に即したサービスが提供できるように期間にこだわらずに見直しができるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が勤務帯において、介護記録に記入している。申し送りなどでも情報の共有に努めている。		更に記録の内容について濃いものにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス併設しており交流を図っている。医療連携においても、グループホーム看護師が休日のときなどは、デイサービス看護師により迅速な対応ができる。		交流をより以上に持って行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアには多数の理解と協力をいただいている。警察・消防・教育機関との協働はほとんどない。		ボランティア募集の広報活動を行っていききたい。その他の各機関とも今後において連携を密にしていききたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、特に行っていない。		本人・家族の希望や必要に応じて他のサービスも活用していききたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席を依頼したが参加には至らなかった。		必要に応じて協働していききたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員主治医を施設の協力医に変更していただいている。月1回の往診がある。その他急変時の受診を行うと共に、必要時往診対応をしていただき、協力体制が整っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との協働はない。		専門医の協働が得られるような体制にしていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護職を配置している。日常の健康管理や協力医・病院との連絡調整をスムーズに行えている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	できる限り情報の提供はするよう努めている。管理者及び看護職を通して連携をとっている。		状況観察のために、病室に面会しに行っている。 必要時、看護師に状況を聞いている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、話し合い、利用者にとって何が良いのかを共に考えている。		できる限りでの対応はしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族との話し合いはある程度されてはいるが、細かい点での整備はされていない。		家族や主治医など、周囲と協働しながら進めていかなければと考えている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	該当事例はない。		できる限り当施設での対応を考えている。該当事例はないが、ダメージが最小限に抑えられるよう支援はしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>常にサービスを提供させていただくという立場であることを教育している。職員には研修や日々の業務を通して周知徹底に努めている。個人情報保護マニュアルを整備している。また、社内規定にも明記されている。</p>		定期的な働きかけが必要。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p> <p>出来ることは積極的に行ってもらい、できないことについてはさりげなく援助できるよう努める。</p>		家事、掃除など日常生活を中心に日々活動し、その月の行事にかかわりのあるレクリエーションを行っている。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>個人のペースを大切に、できる限りのことは自分で行ってもらう。最善のサービスが出来るよう考慮し援助する。</p>		希望にあわせて居室にて食事をして頂いている。体調により、呼び鈴にて対応している方もいる。質のよいサービスを提供できるような体制作りを行っている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>希望にあわせて、施設に出張していただいて対応している。女性には、ボランティアとして化粧を行って来ており、笑顔が見られている。</p>		希望があれば対応したい。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>利用者の負担にならない範囲で調理、盛り付け、洗い物など行っていただいている。献立も利用者の嗜好を取り入れながら作成している。</p>		一人ひとりの細かいところまでの対応ができればよりよいと考える。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>タバコは禁煙としている。常に好みのものを取り入れるようにしている。希望にて、おやつを自己管理して頂いている。本人様のおやつ及び副食を預かり、随時お出ししている。希望すれば少量のお酒対応も有り。(以前対応)</p>		共同生活において、及び体調により、限界あり。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自然な排泄を基本としている。主治医や看護職とも連携し、場合によっては薬でのコントロールもある。栄養士が献立を立てており、栄養面での配慮もしている。		入所時よりほぼ全員の利用者に改善が見られる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴を提供している。入りたくない日には足浴を行い、体調に合わせて清拭を行うなど、利用者の状態に合わせて、対応している。		今後も利用者個々の状況にあった対応をしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝、就寝時間、起床時間については、個人の状況にあわせて、その都度対応している。		個々に対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂や廊下、居室の清掃、調理の手伝い、畑やプランターの手入れ、天気の良い日の散歩など、好みを聞きながらできることをしていただいている。毎月のカレンダーを貼り絵にて作っていただいている。		今後も多くのものを提供できるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承の下で、本人が所持し、管理できる方にはしていただいている。		問題となる事は見られていない。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛けている。個人の対応もできる範囲で行っている。ドライブにも出かけている。		希望時の買い物にも、対応していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設で対応することもあるが、家族にお願いすることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人希望時に対応している。本人宛の電話にも出ている。年賀状・暑中見舞いを家族あてに本人から出している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定していない。(一般常識内としている) 特に連絡をしないでも、気軽に来ていただけるよう、声かけ等には配慮している。また、お茶をお出しして、ゆっくり過ごしていただけるようにも配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	該当事例はない。マニュアルがあり、いつでも確認できる場所にある。		研修や勉強会など知識を深めたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	十分理解できているが、体力的に対応困難な、妄想のある方の状態により、随時行う事がある。		利用者様の状態回復によりケア可能。(可能性あり)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入るときにはロックや声を掛けて許可を頂いてから入り、出来るだけ、何をしてどこにいるのかの、見守りを欠かさないようにしている。職員同士は常に声掛を行い連携している。		プライバシーが気になる方の入口に、暖簾をつけることで、窓が気にならないように、配慮を行っている
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	置き場所を工夫したり代替のもので対応する。		事故発生のリスクは常にあるということを忘れない。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアルを整備している。個々のリスクの把握に努めている。薬はダブルチェックを行っている。		発生時に速やかに対応できるよう反復して訓練する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習を全員が修了している。		発生時に速やかに対応できるよう反復して訓練する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3月に避難訓練を実施予定。		定期的に訓練を実施する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話す機会には、現状やこれから起こりうるリスクなどを話すようにして、理解を得るようにしている。		家族との関係作りを、もっと積極的に行って行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝及び入浴前に、バイタルチェックを実施している。変化があれば細かなことでも情報は共有するよう努めている。		記録の充実を、今以上に行いたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方、及び頓用処方箋を見やすいようカードとし、ファイルでもすぐに確認できるようにしている。確認は二人が行うようにしている。		常に注意する事を忘れないでいたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士が献立を立てている。水分は多めに摂ってもらっている。排泄チェックを行っている。		毎日、散歩や体を動かすようにしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの声かけ、見守りを行いまたは介助する。舌苔の観察も行っている。必要であれば歯科受診も行う。		研修や医師からの指導をお願いしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立てており、主食の量を個々に測ることで、栄養とカロリー面で配慮されている。水分は多めに摂ってもらっている。体調に合わせて、月に1～3回体重測定を行っている。		更に充実を図りたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが整備されている。予防、対応などきちんと実施できている。		インフルエンザ予防接種、職員・利用者全員接種済み。職員の出勤時及び、散歩等の外出後には、イソジンうがい薬でのうがいと、手洗いを徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	基本的に加熱をしている。調理器具は塩素やアルコールで消毒している。作り置きはしない。生ものはストックしない。		今後も消毒を継続し、衛生面での清潔を保つように努力したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置いている。		ベンチやテーブルを置いていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の風景や行事の写真、手作りカレンダーを飾っている。できるだけ自然の光を取り入れるようにしており、植物を飾っている。水槽に金魚を飼っている。畳のスペースを設けており、気軽にくつろげるようにしている。		更に自由に過ごしてもらえる空間の提供。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行動障害による症状時には、職員が気を配り、仲を取り持ちたりして、利用者が安心してくつろげる空間を提供する。		予備の椅子を増やすなど、気軽に使用できるスペースを作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでもらうよう説明している。写真、位牌を置いている利用者がいる。		個人が安心してくつろげる空間作りを一緒にしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度計・温度計を設置し随時確認をしている。加湿器を設置している。換気はこまめに行っている。		一日2回湿度と温度のチェックを行い、湿度が低いときには、お湯を沸かし蒸気を増やす等の、配慮を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じて声かけ、見守りや介助を行っている。		自律にて行えるときには見守りを行い、体調により、必要時ベル対応を行うなど、日内変動に対応している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室は利用者と話し合いのもと、名前を表示している。トイレや浴室など分かりやすく表示している。		コミュニケーションにより、信頼関係を保つように努力している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターがある。暖かいときには非常階段の戸をあけて、椅子を並べて眺めを楽しむ。時には近所の方と挨拶する。布団を干す。		ベンチやテーブルを置きたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日入浴している。天気の良い日は全員で散歩に出掛ける。入所時より排便が改善した。